

設立記念助成の2団体決定！ 2月まで寄付募集活動に取り組みます

このたびの「設立記念助成」には、千葉県内で活動する6団体から応募があり、すべての団体が公開プレゼンテーションに進みました。限られた時間の中で各団体が提案する事業について、目的、必要性、波及効果などの説明、選考委員との質疑応答が行われました。



選考会の様子

その後行われた選考委員会では、各団体が取り組んでいる活動の意義を尊重しながらも、提案されている「事業」それ自体に着目し、その組み立て方、実現可能性、成果への期待度などを多角的に評価した上で、下記2団体が採択されました。

採択された2事業とも本助成金を課題解決に向けて活かすことができると、地域に貢献する事業であること、地域の巻き込みが期待できることなどが評価されました。

助成団体名	NPO法人グループ彩	NPO法人たすけあいサポートアイアイ
テーマ	地域資源を活用した千葉の魅力発信を通して地域活性化に取り組む事業	制度化されていない潜在的な社会課題に取り組む事業
事業名	遊休地を利用する有機農業ならびに野菜・花苗の栽培等のための機械購入	たすけあいサポートアイアイの階段昇降サポート事業
金額	492,160 円	500,000 円

さらに地域社会に拓いていくために
2月末日まで **2事業への寄付を募集します！**

寄付の方法等詳細は
基金ホームページで
<http://chibanowafund.org/>

NPO法人グループ彩

地域ぐるみで障がい者と共に取り組むユニバーサル農業

障がい者福祉サービスを行っている「生活工房」が核となって、障がい当事者と地域の住民、とりわけ高齢化している農業従事者や定年退職者が、遊休農地や耕作放棄地等を利用して有機農業を展開していきます。

このことにより、①障がい者の社会参加と工賃向上、②高齢化による農業の衰退と中高年のボランティア参加・生きがいづくり、③農業問題(後継者不足)と食糧問題(安全でおいしい野菜を栽培、提供)などをつなげた地域づくりをめざします。



プレゼンテーションするグループ彩の石川保夫理事長

NPO法人たすけあいサポートアイアイ

集合住宅移動困難者のためのおでかけサポートプロジェクト

各地域でデモンストレーションを開催し、まだまだ知られていない階段昇降機が存在することに、利用者の拡大、支援者の拡大につなげます。

また、必要なサポートを継続的に安定して提供していくためにはどんな仕組みが必要なのか、自治会やUR、行政、福祉NPO、利用者など関係者による意見交換会を継続して開催します。

自治会や団地ごとにお互いに支え合う仕組みができれば、高齢になっても障がいを持って、住みながら地域で安心して暮らしていける地域社会が実現可能になります。

講座案内 NPO法人の事業報告書作成講座

日時 3/27(水)13:30~16:00 場所 千葉市民会館 第4会議室
講師 伊庭洋司さん(NPOクラブ理事) 定員 20名 受講料 2,000円
内容 事業報告書の書き方の事例・記入に当たっての注意点・「管理費」「事業費」の考え方と配分・決算のための事前準備 など

スタッフのひとこと

2011年から始まった新しい公共支援事業は終盤を迎えます。この間、NPOクラブは県内の様々な団体と出会い、地域の課題に向かい合ってきました。2013年は、引き続きやるべき活動に取り組んでいきます。

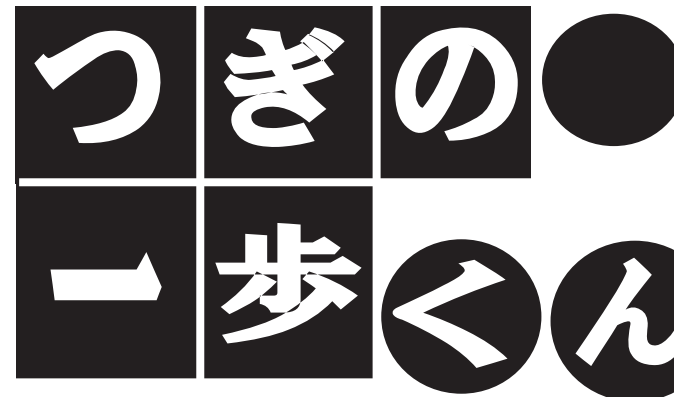
(牧)

編集・発行

特定非営利活動法人
ちば市民活動・市民事業サポートクラブ(NPOクラブ)

■Tel:043-303-1688 Fax:043-303-1689
■〒261-0011 千葉市美浜区真砂5-21-12
■E-mail npo-club@par.odn.ne.jp
■URL <http://www2.odn.ne.jp/npo-club>
■団体会員 52団体・個人会員 97人

News Letter



Vol.46 2013.01

特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ(NPOクラブ)

社員を育て やる気を引き出す プロボノとは？



株式会社ソーシャルプランニング代表取締役 竹井善昭さん

企業が元気になれば地域も元気に。どうしたら企業は元気になれるのでしょうか。『社会貢献でメシを食う』(ダイヤモンド社)の著者、竹井善昭さん(株式会社ソーシャルプランニング代表取締役)にお聞きしました。

企業が業績を上げるためには社員のやる気を引き出すことが大切です。終身雇用制度が崩れ、解雇への不安や能力主義の組織体制など多くのストレスを抱えている現代企業人。3分の1はうつ病やうつ病予備軍と言われています。社員のやる気、幸せはどうしたら育てられるのでしょうか。

プロボノは、社会人が自らの専門知識や技能を活かして参加する新しい社会貢献活動です。これまでの企業の社会貢献活動は、

寄付やボランティア参加などがほとんどでした。業務連携以外で企業間の人的交流や情報交流はあまりなく、企業内でも部署間の交流をはかることは容易ではありません。

しかしプロボノにおいては、会社や部署の枠組みを越えて一つのテーマに取り組むことになりま。通常の業務とは違った視点を求められることも多く、抱えている業務の見直しや気分転換にもつながります。他流試合に出てスキルをみがくといったところでしょうか。

欧米では、社会貢献活動、CSRに取り組んでいることが企業評価につながっています。社会貢献活動は「余計なこと」ではなく、事業経営本体に位置づけられるべきものです。

日本でも企業戦略として社会貢献活動に取り組む企業が増えてきました。社会貢献活動と事業を重ねることで業績を伸ばしている企業が目立ってきています。地域の活性化を進めるためにも、企業の社会貢献活動はとて有用です。

竹井善昭さん
千葉に登場！

ちばコラボ2013★本業に活きる社会貢献活動

日時 2013年2月16日(土)13:30~16:30
会場 千葉市ビジネス支援センター会議室(きぼーる13F)
定員 80名(申し込み先着順) 参加費 無料 主催 千葉県

●講演「社員を育て やる気を引き出す プロボノとは」
竹井善昭さん(株式会社ソーシャルプランニング代表取締役)

●グループディスカッション「あなたができる社会貢献のカタチを見つけよう」

●「グッとNPO 見て、話して！」
千葉市、市原市、袖ヶ浦市で活動しているNPOがアピール展示

問合せ・申込み:NPOクラブ

TEL 043-303-1688 E-mail npo-club@par.odn.ne.jp

「地域づくりに役立てたい」 思いをのせたお金を集め、活かすには？

ファンドレイジングinちば
誰もが
「寄付」のカタチ

報告

2012年12月8日、さまざまな「寄付」を集め、活かし、つなげる仕組みを作ってきた3人のトップランナーが千葉に集まりました。



世界最大級の寄付サイト「Just Giving」日本版を立ち上げた
佐藤大吾さん。

日本初の“市民立”公益財団「京都地域創造基金」を設立した深尾昌峰さん。
東海地方初のNPOバンク“momo”を設立した木村真樹さん。

3人からは、千葉への熱いエールをいただきました。
2012年に設立した「一般財団法人ちばのWA地域づくり基金」は
2013年春に公益認定予定。
地域づくりに共感するおおぜいの寄付を集めて、活かす
市民ファンドとして動き出します。

あなたのチャレンジが団体の支援に

一般財団法人ジャスト・ギビング・ジャパン
代表理事 佐藤大吾さん



ジャストギビングは2001年に英国で始まった寄付仲介の仕組みです。日本では2010年からサービスを開始し、東日本大震災以降は8億1600万円を集め、国内最大の寄付仲介サイトに成長しました。単なる寄付を募るサイトではなく、チャレンジャー（寄付を集める人）が寄付を呼びかけるサイトです。チャレンジャーは支援したい団体を指定し、目標金額を決めて自分のチャレンジを公開、これに賛同した人がジャストギビングに寄付します。ジャストギビングは集まった全額を支援先団体に引き渡し、システム利用料を団体から徴収します。例えばノーベル賞受賞者・山中伸弥さんは、iPS細胞研究費を集めるため京都マラソンに出場して完走するというチャレンジを公開し、現在までに約2000万円の寄付が集まっています。

社会問題を解決に近づけることがNPOの使命です。大勢の心を動かし、その意識と行動を変えていければ、問題解決に一步近づきます。自分ひとりが寄付すれば3000円ですが、ファンドレイザーとなって自分の周囲10人に寄付を呼びかければ、3万円を集めることができます。ジャストギビングを通じて人の心を動かすファンドレイザーが増えていけば、日本の寄付金額は大きく伸びていきます。

お金の流れが社会を変える みんなの“志金”で地域を元気に

コミュニティ・ユース・バンクmomo
代表理事 木村真樹さん

momolは「持続可能な地域をつくる」をミッションに、2005年に設立した東海地方で初めてのNPOバンクです。2012年12月現在の実績は出資者501名、出資総額4,905万円、融資総額8,385万円/39件。全国から寄せられた出資金を愛知・岐阜・三重のNPOなどに融資しています。配当はありませんが、正会員になると出資額の10倍まで融資が受けられます。

約40名のユース(若者)ボランティア「momoレンジャー」が、融資先を応援するための情報発信や、出資者との対話の場づくりなどの支援を行います。地域の人たちを巻き込んで、お金以外の地域資源を集める“借り物競走”のお手伝いをするのです。



融資を決めるポイントは「持続可能な地域づくりにつながるか?」。書類だけではなく、何度も会い、評判を聞いて、組織面でポジティブだからこそ融資します。出資者の顔を思い浮かべて、その地域づくりを応援できる“かけ算”が思い浮かぶならOK。貸し倒れはなく、どうすればうまく返せるか一緒に考えています。今年度中に、深尾さんの言う「ほっとけない」期間を応援するしくみとして、愛知でもコミュニティ財団を立ち上げます。

寄付する「権利」を！「ほっとけない」を支える仕組みづくり



公益財団法人京都地域創造基金 理事長 深尾昌峰さん

いま「当たり前」とされている社会課題は、誰かの気づきと行動から始まって次第に認知されてきたものです。例えばDV(ドメスティック・バイオレンス)は、大事な家族や友人が暴力にさらされている状態に気づいた誰かが「ほっとけない」と行動し、訴え続けてきたからこそ、社会全体の課題として認知されるようになりました。こうなれば新たな制度や税金で支えることができますが、それまでの間、「ほっとけない」と仲間と取り組む間の活動は寄付で支えるしかありません。

ある調査によると「なぜ寄付しないのか」という問いに対する最も多い回答は「頼まれたことがないから」。きちんと寄付をお願いすれば、「ほっとけない」活動に寄付したい人は確実にいるのです。「寄付したい人たちの権利」を保障し、「ほっとけない」を支える仕組みを創るために2009年、京都地域創造基金を設立しました。情報開示と認証のシステムで信頼できる・支援したいNPOを可視化し、企業と連携した寄付付き商品、居酒屋と連携した「カンパイチャリティ」などを通して、3年間で1億5000万円の寄付を集めてきました。日常生活の中で、皆が楽しみながら寄付できる仕組みをこれからも創り出します。



3人のトップランナーから千葉のNPOに、エールを送ります！

- ★「何とかしたい」気持ちを大切に、冷静に行動しよう。まずはジャストギビングに登録し、そして認定NPO法人を取る。ぜひチャレンジしてほしい。(佐藤大吾さん)
- ★自分たちに必要なしくみは自分たちでつくろう。カギは人財。“志金”は人財を融通するしくみとセットだから生きる。(木村真樹さん)
- ★画期的な寄付税制ができたのに使えていない。NPOが本当に社会を変えていけるのか、厳しく問われ始めた。まず一步を踏み出そう。(深尾昌峰さん)